

伊勢市長賞



「ぼくとお年寄りについて」

有緝小学校 五年 世古口 昂弥

せこぐち

こうや

ぼくの家の近所には、お年寄りの人がたくさんいます。ぼくが元気にあいさつをすると「えらいなあ、気をつけてな」と、言ってくれます。ぼくより歩くスピードが早い人もいてびつくりする事もあります。元気な人もいれば、そうじゃない人もいて、たまに広報いせで行方不明者の情報提供の呼びかけを耳にします。いなくなった人の服そうを聞いて、学校の行き帰りそんな人はいなかったかいつも考えます。無事に見つかったと連絡があるとよかったなあとお母さんと話します。

お母さんは介護士をしているので認知症についてどんな病気なのか聞いた事があ

ります。「さっきした事を忘れてしまったり、昨日までできた事ができなくなったりする病気やよ。いい薬もあるけど、周りの人が優しくしてあげる」ことが一番の薬だよ。」と言いました。そして認知症になっても優しさ、悲しさ、喜び、楽しみ、うれしさは変わらずにあると聞いて安心しました。

ぼくのおじいちゃんは、今年亡くなりました。認知症ではなかったけど、あんなに元気だったおじいちゃんがなくなってしまうのが、今でも信じられません。どんなに痛くてもぼくたちが行くと「ようきてくれたなあ。」と言ってくれて「ににに」していました。いっぱいおいしいものを作ってくれました。プールを用意してくれたりいろんな所に連れってくれたりしました。ぼくの野球の話しをうれしそうに聞いてくれました。そんなおじいちゃんがなくな

りとても悲しいけど、一人になってしまったおばあちゃんと大事にしたいと思います。今ぼくが元気に過ごしていただけるのはじいちゃん、ばあちゃんのおかげだと思っています。そして近所のお年寄りの人たちともっと交流して助けあいをして行けば、今よりもっと安心して暮らせると思います。コロナのえいきょうで、今年は残念だったけど、来年機会があれば、「認知症サポーター講座」に参加をして、いろいろ勉強してみたいと思います。そしてお母さんと同じオレンジリングをもらいたいです。

伊勢市議会議長賞



「わたしにできる事」

たむら

あやか

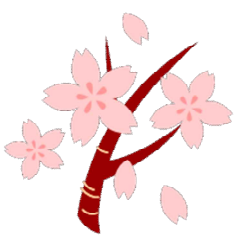
修道小学校 三年 田村 彩花

わたしのお父さんとお母さんは、しょうがいのある人のお世話をする仕事をしています。しせつには、お年よりの人やにん知しようの人もたくさんいると聞きました。いつも帰ってくるのがおそく「仕事が大へんなんだよ」と教えてくれます。にん知しようの人には、ていねいに何回もせつ明してわかってもらえるまで話をするそうです。毎日仕事のことを楽しそうに話してくれるので、わたしも大人になったら同じ仕事をしてみたいと思っています。

今、わたしにできることは何だろうと考えました。荷物をたくさん持って大へんそうな人や、おうだん歩道をなかなかわ

たる」ことができず「まっっている人がいたら
「どうしたんですか」「何かお手つだいしま
しようか」と自分から声をかけたいです。
みんながお年よりにやさしい町になれば
うれしいです。

伊勢市教育長賞



「認知症でも大切な人という

ことは変わらない」

なかざと ここね

有緝小学校 六年 中里 心音

私は、認知症の人に会ったことはありません。だから認知症というものはしつかりと受け止めたことはありません。だからこそ、本を読んで認知症のことを少しでも知ろうと思つて実際に認知症になつた専門医の長谷川和夫先生の著書『ボクはやつと認知症のことがわかつた』をいう本を手に取りました。

まず、一通り本を読んで思ったことは、自分も認知症のことを勘違いしていたということなのです。私は今まで認知症の進むスピードは必ず速いと思つていました。しかし本当は人によつてかなりの差がありま

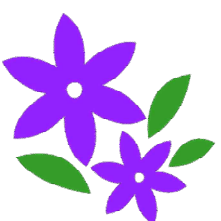
す。おそい人もいれば速い人もいるということ
ことです。だから、しっかりと相手と向き
合うことが大切です。でも、向き合うとい
うことは私たちの普段の生活と変わりが
せん。だから認知症でも一人の「人」とい
うことは変わりません。実は認知症とい
うものは、昔は「痴呆」と呼ばれて認知症
の人は何もできないと思われていました。
しかし、今はそのイメージも和らぎました。
認知症の人は何もできないではなく、助
けが必要な人です。逆に私たちは認知症
の人に多くの部分を支えてきてもらった
という意識を持たなくてはいけないと思
います。

次に思ったことは認知症になった方がい
る家族、そして周りのケアが認知症になっ
た人にとっての一番の安心であるというこ
とです。やはり、一番大切なのは家族の
ケアだと思います。私には曾祖父がいたの

ですが、私の祖父母がいつもやさしく接していたので曾祖父はいつも元気でした。このように、家族がしっかりと向き合って接しなければ不安になります。それは私たちでも同じ、変わらないことです。それと同時に安心できるような環境を整えられる周りのケアも大切です。今住んでいる自治体が行っている認知症に対する取り組みをいろんな人に知ってもらいたいと思います。実際に私も伊勢市の取り組みについて調べてみました。いろいろとありましたが、一番納得したものは「いせ見守りてらす」です。登録番号のシールがあるとわかりやすく、安全に外出しやすいと思います。友達や身内の人はこの制度を知りませんでしたが、もつとこの制度や他の取り組みをたくさんの方が知ってもらい、認知症の人にとって安心安全のまちにできたらいいなと思います。

私がこの作文で一番伝えたいのは、認知症になっても人は変わらないということです。今までに書いてきたように認知症の人とそうでない人でもほとんど変わらない。だから、何もかも全て代わりにやっただけでいい。だから、あげるといのはちがいます。一人でできないことを手助けしてあげる、そのことによって安心して過ごすことができます。高齢化・コロナ禍の中、ケアもうまくいかないことが多くなったと思います。これからの社会のためにも福祉ということに目を向けるべきだと思います。

伊勢地区医師会長賞



「私のおばあちゃん」

二見浦小学校 四年 五十子 美愛

私のおばあちゃんは、おばあちゃんじゃなくて、おおばあちゃんです。私が生まれた時から、お母さんが、「おばあちゃん」と呼んでいたので、そのまま「おばあちゃん」と言う様になりました。

おばあちゃんは、口ぐせの様に、「にん知しようにはなりたくない。みんなのこと、わすれたるんは、いちゃ。」
と書いていました。

なので病院にも通っていました。今は、病院で、にん知しようをおそくする薬があつてその薬は、ゼリーみたいな物です。毎ばんのむのですが、おばあちゃんのむのをわすれるといけないので私がいつものませ

ていました。いつも「ありがとう」と言っていてくれるのがうれしかったです。

今は、薬でにん知しようのしょうじょうをおそくできることにおどろきました。その薬のおかげでおばあちゃんは、そんなにぶしぎな発言もなくちゃんと色んなことをおぼえてくれていました。

それでもたまに、何回もいっしょのことを聞くことがあったのですが、私の家族が何回もやさしく、説明していました。

私は、ぶしぎに思ってお母さんに

「なんで、いっしょのことを何回も聞いて、

いっしょの「と答えるの？」

と、聞いた」ことがあります。

そのときに、初めてお母さんがにん知しようのことをすしおしえてくれました。

おばあちゃんにはいっしょのことを聞いているつもりはないと言っこと、なくなった人が家にあそびにきたりすると言っこと、

他にもちがうしょうじょうがあるとおしえてもらいました。

何回もいっしょのことを聞かれるのは、イライラすると思います。だけど一人一人が、にん知しようにすこしでもわかってあげたら、今よりももっとやさしくなれると思います。

私のおばあちゃんは、去年九十二才で天国へ行きましたが、私はおばあちゃんがいれくれて、にん知しようにのことやかいごのこと、おじいちゃん、おばあちゃんがでまいることできないことがわかって良かったです。

私はこれからもおじいちゃん、おばあちゃん、高れい者の人達に手をさしのべながら、声をかけてやさしくせつしたいと思います。

伊勢志摩区域連携型

認知症疾患医療センター長賞



「認知症患者を助けたい。」

いわもと

りお

小俣小学校 四年 岩本 俐煌

ぼくは今回この認知症について作文を出そうと思ったのは、お父さんの影響が大きいと思います。

宿題のテーマで作文を見ている時にぼくはすぐに両親に認知症について教えてもらいました。

ぼくの両親は、お父さんが医薬品の仕事をされていて、お母さんは薬剤師をしています。

認知症について教えてもらい考えたことは「ぼくが医師になって薬を開発しようと思いました。」

まず聞いたことは、認知症という病気についてです。認知症という病気は記憶の

病気であるということですが。もの忘れがひどくなったり、人の顔と名前とかを忘れてしまうということですが。言葉で聞くと小さく感じますが、家族の方々はずごく大変です。意思が伝わらないのが大きい。ぼくは、その病気の怖さを改めて感じました。

ぼくは認知症の治療と診断については、お父さんに聞きました。病院で画像をとって診断したり、問診して診断すると聞きました。もつとおどろいたのは、突然認知症になったりするということ。そしてぼくはお父さんの祖母は、夫である祖父が病気で亡くなった時、祖母がさみしかったのだと思うのですが、突然認知症になってしまいました。お父さんも急な祖母の変化におどろいたと聞きました。そこから家族の生活も大きく変わったということでした。

一人の認知症になった人が家族にいると今までの生活ができなくなり少し家族が暗くなったように感じたそうです。

ぼくは治療についてお母さんに聞きました。お母さんは薬剤師をしているので薬について詳しく、患者さんとも話しているのでその経験も教えてもらいました。

「でもおどろいたことは、今の薬で治るといふことは難しいといふこと。」

ぼくは、薬という物は治せるものだと思っていたからです。今の薬は悪くなっていくのを遅らせることしかできないとのことでした。

お母さんは、「少しでも悪くならないことが認知症の家族には大きなことなんだよ。」と聞きました。

そして、「これから良い薬ができて治せる時代がくるといいね。」

という「こと」を言っているのを聞いて、ぼ

くは将来この医療に関わった仕事がしたくなりました。それが、薬の開発なのか、薬剤師なのか、医師なのかはわかりません。

でも、その家族の生活を守っていけるようになりたいと強く思いました。

ぼくは、認知症という病気を知ってもっと調べて勉強してみようと思いました。

改めて苦しんでいるのは患者さんだけではなく家族も同じということも学べて良かったです。

伊勢市立伊勢図書館長賞



「お年寄りと接して」

にしかわ れな

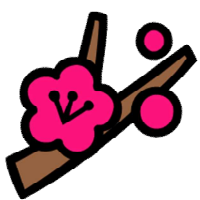
小俣小学校 四年 西川 怜奈

私が年長の時に、ようち園のイベントでろうじんホームへ行きました。そこは、お年寄りのためのおうちでした。そこに住んでいるお年寄りは、ねたきりの人や、認知症の人、手・足などが不自由な人もいました。そのろうじんホームでは、運動会がおこなわれました。お年寄りが楽しくさんかできるようにくふうされていて、すごいなと思いました。お年寄りは、みんな楽しそうに笑っていました。目が見えなかったり、耳が聞こえなかったり、ねたきりの人や、認知症の人でも、ひょうじょうや、ジエスチャーで、楽しいー！と伝えて、ニコッと笑っていました。すると、ついていた、たんどうのかいごしさんが、同じように、ひょうじょうや、ジエスチャーで、楽し

いね……と伝えていました。そのやりとりを見て、すごいな。心と心で会話ってできるんだなあと思いました。なので、いつかお年寄りとかと、心と心で会話をしたいです。ろうじんホームで、いろんなお年寄りと話したりしました。ろうじんホームにいるお年寄りと、話したり、楽しんだりする事ができて、とてもうれしかったです。

それから私は、学校へ行ったり、さんぽをしたりしていると、お年寄りの人がいたら、はずかしがりやだった私でも、「おはようございます……!。」や、「こんにちは……!。」などとはずかしながらに言うようになります。あいさつをすると、かならず、「おはよう。いってらっしゃい。」「や、」「こんにちは。がんばって。」「などとへんじをかえしてくれます。私は、そういうやりとりが大好きです。なので、これからも、笑顔でお年寄りの人にせつしたり、話しかけたりしたいです。

伊勢市立小俣図書館長賞



「わたしがかみのけ

あらってあげる。」

もりやま こころは

御園小学校 一年 森山 心晴

わたしのばあちゃんは、しらないうちに、あっぱくこつせつをくりかえし、「こしがまがつてしまいました。あるくときは、いえのなかでも、おしぐるまをひいています。おしぐるまがちかくなるときは、ひざにてをあてて、かがんであるきます。わたしはみていて、ばあちゃんが、あたまをかべにぶつけないかしんぱいになります。そんなとき、わたしははしつてものをとってあげます。

「のまえ、ばあちゃんがげんかんで、ありのぎようれつをみつけました。

「ばあちゃん、よくみつけたなあ。」
とつとつと、ばあちゃんは、

「したばかりみてあるいとるでなあ。」「ん
ど、ええもんひろったるでなあ。」「
といました。みんなでわらったけど、」「
るのなかで、ばあちゃんは、まえをみてあ
るくことがむずかしいんだなとおもいまし
た。

ばあちゃんは、わたしがおねがいすると、
いつでもトランプやカルタをしてくれます。
そんなばあちゃんが大好きです。

わたしがちいさいころは、いっしょにおぶ
るにはいっしょしてくれることもあったけど、ちい
さんは、ばあちゃんに、

「いっしょにはいっしょ。」
といっしょも、

「いっしょちゃんをいっしょあんならんなから。」
といっしょ、いっしょにはいっしょとがでまかせ
ん。

いっしょだったか、ばあちゃんが、

「かみをあらいたたいんやけどなあ。」

とひとり「とをいっていたので、わたしは、
「ばあちゃん、きょうは、わたしがかみの
けあらってあげる。」
とこいよ、

「じ」ちゃん、あらってくれるの。」
とばあちゃんは、うれしそうにいました。
わたしは、ばあちゃんのかみのけをやさし
くあらいました。

「ああ、いきかえった。」
といてくれて、とてもうれしくなりまし
た。わたしは、いつでも、ばあちゃんのかみ
のけをあらってあげたいとおもいます。

わたしは、ゆめがいくつもあります。そ
のうちのひとつが、おいしやさんです。もし
なれたら、ばあちゃんのを「しをピンとの
ばしてあげたいです。そして、ほかにも「
まっているおじいちゃんおばあちゃんの「
しもなおしてあげたいです。」